

有限会社岡野農場（境港市）

代表取締役 岡野修司

社長さんは
こんなかた

質と量の安定を求める小売店の要望に商機を見出して、自ら生産・加工に進出。市場を見据えて「事業としての農業」を体現する実力派。

有限会社岡野農場

事業内容 野菜栽培（大根、葱、里芋）
生鮮野菜・加工販売

鳥取県米子市葭津町207-4
(0859)28-8248

（農場）

鳥取県境港市中海干拓地 他

（規模）

耕地	だいこん	70ha
	さといも	25ha
	白ねぎ	6ha

顧客の要求に応えるために

青果卸売業を営むなかで、小売店の要望が質と量の安定にある事に気付きました。もともとは地元の農家から野菜を買取って大型小売店に卸していたのですが、これでは質や量の安定を求める要望に応えられないと感じ、平成6年に（有）岡野農場を設立、自ら生産を開始しました。

農場拡大の転機は、安全で産地の明確な大根を安定して供給できる生産者を求めている大手コンビニエンスチェーンに、おでんの具として一次加工して契約出荷を始めたことです。

それ以後も着実に取引先を拡大、作目・栽培も工夫を凝らしていますが、私の経営の信条である「顧客の要求に応え、出口を明確にした上での生産」が全ての原点となっています。

苦労というよりは工夫の日々

この10年間を振り返って、経営については「可もなく不可もなく」といったところでしょうか。しかし、安全で美味しい野菜を質・量ともに安定して供給するために、独自性を求めていく工夫の積み重ねだったし、これからもそうだと思います。

大きな標高差で収穫期を分散

大根は、年1作を守っています。それは土を大切にするためですが、そうすると同じところで作っては収穫期が一度に来てしまうため、長い期間での供給ができません。そこで、大山山麓から弓浜干拓地まで標高差のある複数の農地に分散させて、より長い期間収穫ができるようにしています。

そこまでして土を大切にしています。農業生産の基本は土、これが私の農業生産に対する基本姿勢です。農薬や化学肥料を削減するなどの取組みの結果、鳥取県で初めての「エコファーマー」に認定されましたが、それを実現するためには土が強くなければなりません。そのためには、連作ができないのです。この認定を受けたことから、今では産直野菜としても多くの引き合いをいただいています。





事業としての農業

農業を事業として取り組む事は容易ではありません。私も常に工夫を凝らしています。何よりも大切なのは、顧客の要望に答え、質と量そして価格を安定させる事だと思います。

「高くなったから儲かった」、「安くなったから損した」では事業としては成り立たなくなってしまいます。例えば、私の顧客である小売店の立場からすると、要望は必ずしも「安く」ではなく「安定した価格で」なのです。これに応じていく事が事業としての農業を成立させるための大きなポイントの一つだと思い、日々取り組んでいます。

今の課題は、顧客の要望に応じていくために、より農地を拡大する事です。近い内に300haまで拡大したいと思っています。